

加藤紘氏との応酬 勲章

通常国会の閉幕から一夜明けた2日、今限りで勇退する自民の岸宏一参院議員(県選挙区)は山形新聞のインタビューに応じ、金山町長時代と3期18年にわたる参院議員生活を振り返った。

30歳で金山町長に初当選し、1982(昭和57)年4月には自治体で全国初の情報公開制度(同町公文書公開条例)をつくった。

「若いころは野心的で、自分にりに美しく開かれた町づくりに精

勇退の岸氏 政治活動振り返る

今後とも吉村知事支援

参院選対応「私は自民党员」

力を傾けた。早大の同窓生で新聞記者だった友人の勧めで、小さな町で隠すことは何もないと、条例を制定した。閉幕した先の国会で、警察と検察に取り調べ全過程の可視化を義務付ける改正刑事訴訟法が成立した。情報公開制度の進展に驚くとともに、当時の判断が正しかったとの思いを強くし、深い感慨がある。

96年から現在まで、約20年にわたって県農業会議の会長を務めている。

95年の参院選に際し、自民党から出馬を打診されたが、これ



インタビューに答える岸宏一参院議員
＝東京・永田町

を固辞した。すると、高橋和雄知事(当時)が「3年後の参院選に備えてはどうか」と同会議の会長に推してくれた。非常に感謝している。その後の選挙戦で、県内一円の農業委員から支えられた」

高橋氏、さらに現在の吉村美栄子氏が初当選した知事選で、両氏を積極的に支援し、自民の大勢とは違った独自の政治信条を貫いてきた。

高橋県政が誕生した93年の知事選で、自民は市町村長に何の相談もなく、推薦候補(現在の土田正剛東根市長)を決定した。反発する市町村長が多く、最上地方町村会長として先頭を切った元副知事の高橋氏を担いだ。高橋氏は3期で退くつもりだったと思うが、われわれ周囲の要請で4選に挑戦した。93年の知事選で敗れていたため、その敵討ちとして、2005年の知事選は自民の加藤紘一衆院議員(当時)らが斎藤弘氏を擁立、激戦の末に高橋氏は涙をのんだ」

しかし、斎藤氏の県政運営は性急で、知事選で高橋氏を支援した勢力に冷淡だった。行政手腕は未知数だったが、われわれは吉村

氏の擁立にこぎ着けた。選挙期間中は1日も欠かさず吉村氏の個人演説会で支持を訴えた。県民に寄り添った県政に転換することができたのではないか」

2期目の吉村氏は来年2月、任期満了を迎える。これからも支援するか。

「吉村氏の県政運営は手堅く、その一方で積極的に県民と接している。現職を退いてからも引き続き微力ながら支援したい。今後は県民と夢を共有できるような県土づくりを進めてほしい。知事はあまり政党色が濃くなく、県民に近い距離にいる人物こそがふさわしい」

知事選を巡る因縁からか、3期目に挑んだ10年の参院選で、党県連会長だった加藤氏が公募を実施し、党员投票を経て出馬した。

「(知事選における過去の対応は)加藤氏の意に沿わないことだったのだろう。振り返ってみれば、相当激しいやりとりをしてきた。(党幹事長を務めた)加藤氏と互角に渡り合ったことは勲章。知事選は2勝1敗だった。公募を争った大沼瑞穂氏が3年後の参院選で初当選した。宏池会の同志であり、今後一層の活躍を期待する」

間近に迫った参院選で、自民は元JAの月野薫氏を擁立した。県連から月野氏の新社長上連絡協議会長就任を求められ、受諾した。対応が注目されるが。

「私は自民党员。その一言に尽きる」